に子どもなど侍るが、ものをほしがりつれば、かやうの所にはくひものちろぼう物ぞかしとて、まうできつるなり、ゑとぎばらたべてまかりなんといへば、ゑとぎをせさせて、一おしきとらせたれば、すこしくひてあなむまや〳〵といふ、この女のゑとぎほしがりければ、そら物つきてかくいふとにくみあへり、紙給りてこれつゝみてまかりて、たうめや子共などにくはせんといひければ、かみを二枚引ちがへて、つゝみたれば、大やかなるをこしについばさみたれば、むねにさしあがりてあり、かくてをひ給へまかりなんと驗者にいへば、をへ〳〵といへば、立あがりてたうれふしぬ、ゑばしばかりありて、やがておきあがりたるに、ふところなる物さらになし、うせにけるこそふしぎなれ、

〔臥雲日件錄〕享德二年二月廿五日、林光院主脩山來、話次及射狗事、山曰、鳥羽院御宇、息所有美女、不知所出、名曰玉藻前、然爲帝所寵、能知天竺唐土之事、言之、爾後帝不豫、卜之、則此女所使、然也、遂禱之、女變成狐逃去、此狐在下野州那須野中、將驅之、然捷疾不可捕得、先命武士騎馬射狗、以習射狗、然后上總介者射而殺之、尾有雙針、上總與之、賴朝、賴朝得之、遂定天下、上總介亦源家之士也、凡今射狗本於此云、又曰、此狐乃周褒姒所化也、

〔源平盛衰記〕清盛行大威德法附行陀天幷清水寺詣事

清盛後憑モシク思テ、略○中希代ノ果報哉ト怪處ニ、或時蓮臺野ニシテ、大ナル狐ヲ追出シ弓手ニ相付テ既ニ射ントシケルニ、狐忽ニ黃女ニ變ジテ莞爾ト笑ヒ立向テ、ヤヽ我命ヲ助給ハヾ、汝ガ所望ヲ叶ヘント云ケレバ、清盛矢ヲハヅシ、如何ナル人ニテオハスゾト問フ、女答テ云、我ハ七十四道中ノ王ニテ有ゾト聞ユ、サテハ貴狐天王ニテ御坐ニヤトテ、馬ヨリ下テ敬屈スレバ、女又本ノ狐ト成テ、コウ〳〵鳴テ失ヌ、清盛案ジケルハ、我財寶ニウエタル事ハ、荒神ノ所爲ニゾ、荒神ヲ鎭テ財寶ヲ得ニハ、辨才妙音ニハ不如、今ノ貴狐天王ハ、妙音ノ其一也、サテハ我陀天ノ法ヲ成就